

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

- (1) 新人教育では計画に沿って実地指導者と共に看護技術を中心とした勉強会を行ない、看護実践に活かすことができた。また、平成30年度の看護研究を総合医学会で示説発表した。
- (2) 看護記録について記録の不備の監査を実施。結果を可視化することで個人の意識の向上に繋がり、適切な看護記録が記入でき記録の不備が減少した。看護計画の立案についての監査では治療方針の変更時に追加修正や新たな立案が行われていないことがあったため、タイムリーに追加修正ができるように再度周知する必要がある。
- (3) 抑制カンファレンスは日勤で毎日実施し評価した。デスカンファレンスは38名中16名実施できた。デスカンファレンスで振り返り学んだことを次の患者看護に活かし対応できた症例もありデスカンファレンスの有用性を実感できたので継続していきたい。

2) 病院運営・経営に参画する

- (1) 令和元年度の1日平均患者数は25.0名・病床利用率83.4%・病床稼働率91.3%・平均在院日数12日・重症医療看護必要度は36.4%であった。短期の検査や手術入院と共に化学療法看護・看取りの看護・緊急を要する認知機能低下のある患者を積極的に受け入れたため、病床稼働率を上げ、看護必要度35%以上を維持できたと考える。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

- (1) 令和元年度のインシデントは138件であった。転倒転落・麻薬に関すること・抗がん剤暴露・CVC自己抜去等の重大なインシデントはタイムリーに振り返りを行ない、対策を立て実践することで危険予知できるようになった。
- (2) 毎週水曜日に医療安全カンファレンスを実施した。意見交換することでより良い方法を模索し、対策を検討し看護実践にフィードバックできている。
- (3) 年間を通しアルコールの使用量は増え、スタッフの手指消毒への意識は向上していると考え。スタッフ全員が感染に対しての意識の向上ができるようにリンクナースを中心として今後も声をかけあっていきたい。

4) 専門職として能力開発に努める

- (1) 新人の育成については個別性を捉えながら成長度に合わせた指導方法と看護実践を行なった。その結果、指導する側も焦らずに丁寧にかかわることができ、新人の成長に繋がる指導ができるようになった。
- (2) 2年目の看護師には退院調整も含めた看護実践ができるように受け持ち患者を選定した。関わり中での学びや反省点を振り返ることができ、次の患者の看護に活かしているという意見が聞かれた。3年目の看護師は看取り期の患者を受け持ち、家族ケアも含めた看護介入ができ、デスカンファレンスで振り返ることで、感性を養うことができている。
- (3) 認知症研修4名・癌看護関係の研修2名・医療安全研修2名・総合医学会2名参加した。

5) 看護の先輩として学生指導に携わる

- (1) 学生には適宜声掛けを行ない援助後の意識づけや知識の意味づけができるようにした。
- (2) 病棟スタッフへの実習目的・目標・方法を実習ごとにポスターで掲示しスタッフが周知できるように

した。実習の目標を意識し学生の日々の目標発表をきくことで指導者としての関わりを考えられるようになった。引き続きコミュニケーションを取りながら目標に沿った実習指導をおこなってきたい。

(3)3～5年目の記録指導については特に3年目看護師が経験できるように指導する上で困っていることなどの把握に努め、相談・助言できた。

6) 活気のある職場、活気のある職場作りを推進する

(1) 不要な時期にはマスクを外し、明るい笑顔で挨拶できるように心がけた。

(2) 年間を通してスタッフ全員が年2回の長期休暇を取得し、リフレッシュできた。

2. 病床運営状況

表1 令和元年度 病床運営状況

収用可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床利用率 (%)	病床稼働率 (%)
		新入院患者 数(人)	退院患者数 (人)				
30	内科系混合	54.8	72.8	25	12	83.4	91.3
有料個室		死亡者数(人)					
病床数(床)	稼働率(%)						
30	91.3	38					

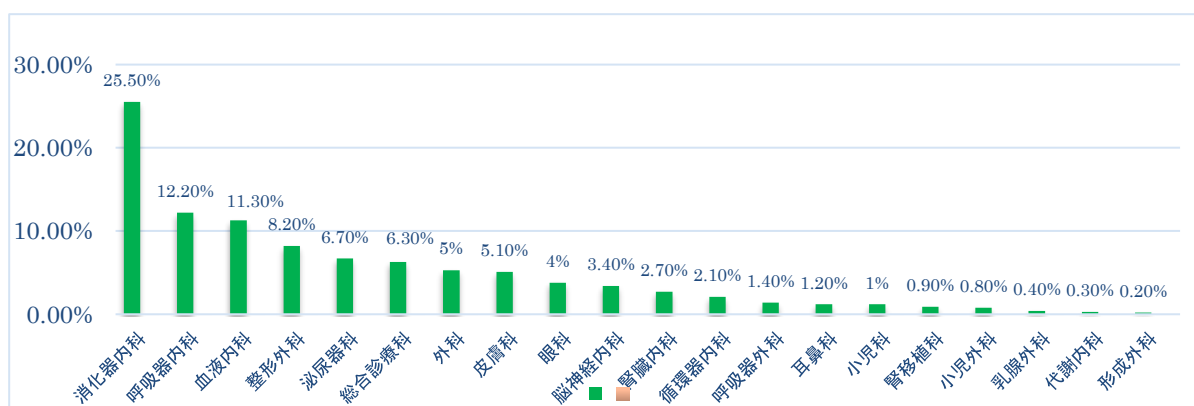


図1 令和元年受け入れ診療科内訳(総数 901 名)

3. 看護体制

表2 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
28	PNS®	3:3

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表3 令和元年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす患者の割合(%)	38.7	27.2	32.5	32.2	47.2	48.0	37.6	44.3	39.3	31.7	28.0	30.2	36.4

5.研究業績

1)看護研究発表・研究会発表

演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
B病棟に入院した患者・家族のニーズに沿った療養環境及び看護の検証	松本美咲	第73回国立病院 総合医学会	愛知	2019年11月8日
A病棟の認知症ケアの現状把握とケアの検討	北村奈都	看護研究発表会	院内	2020年2月8日